

# 2024年度 北九州市平和のまちミュージアム年報



1945(昭和 20)年 4 月 アメリカ合衆国海軍第二写真解析部隊撮影の小倉陸軍造兵廠及び周辺市街地 (常設展示)

# 目 次

|                                  |         |    |
|----------------------------------|---------|----|
| はじめに                             | 館長 重信幸彦 | 1  |
| 第一部 事業概要                         |         |    |
| I 施設概要及び沿革                       |         |    |
| 1 設立理念                           |         | 3  |
| 2 開館の背景                          |         | 3  |
| 3 施設概要                           |         | 3  |
| 4 沿革                             |         | 4  |
| II 展示事業                          |         |    |
| 1 常設展示                           |         | 5  |
| (1) 概要                           |         |    |
| (2) 各展示ゾーン                       |         |    |
| 2 360度シアター新映像コンテンツ制作             |         | 6  |
| 3 企画展示                           |         | 7  |
| (1) 「戦場からのことば～軍事郵便・遺書～」          |         |    |
| (2) 「八月九日を忘れるな！～小倉と原爆“if”の歴史～」   |         |    |
| (3) 「学徒らしくあれ～旧制中等学校の戦争史 門司・小倉編～」 |         |    |
| (4) 「まちとわたしたちの物語～令和6年度収蔵品展～」     |         |    |
| 4 企画展ミニ図録製作                      |         | 9  |
| III 資料収集・保存事業                    |         | 10 |
| IV 映像資料                          |         | 11 |
| V 教育普及事業                         |         |    |
| 1 小学校来館時の展示解説                    |         | 12 |
| 2 出前授業・オンライン授業                   |         | 12 |
| 3 長崎市との交流事業                      |         |    |
| (1) 青少年ピースフォーラム派遣事業              |         | 13 |
| 4 戦跡ツアー                          |         | 14 |
| 5 連携事業                           |         | 15 |
| (1) 北九州市立大学博物館学芸員講座              |         |    |
| 6 講演                             |         | 15 |
| (1) 出前講演                         |         |    |
| (2) 北九州市民カレッジ                    |         |    |
| (3) 国立市公民館平和講座における講演             |         |    |
| VI 人材育成事業                        |         |    |
| 1 ～考える・つながる・伝える～北九州市ピースフィールドクラブ  |         | 17 |

## **VII 広報**

|                                     |    |
|-------------------------------------|----|
| 1 ホームページ・SNS関係 .....                | 18 |
| (1) ホームページの運用                       |    |
| (2) LINE・ツイッター(現 X)の活用              |    |
| (3) 学芸員日記                           |    |
| (4) Wi-Fi の提供                       |    |
| 2 西日本新聞北九州版へのコラム連載 .....            | 18 |
| 3 取材記録 .....                        | 18 |
| 4 第 39 回福岡県高等学校総合文化祭における新聞部大会 ..... | 20 |

## **VIII 組織**

|                              |    |
|------------------------------|----|
| 1 管理運営(事務局) .....            | 21 |
| 2 北九州市平和のまちミュージアム運営懇話会 ..... | 21 |
| (1) 概要                       |    |
| (2) 運営懇話会開催状況(第 3 回運営懇話会)    |    |

## **第二部 参考資料**

|                      |    |
|----------------------|----|
| 1 2024 年度統計データ ..... | 25 |
| 2 2024 年度決算額 .....   | 25 |
| 3 関係条例・規則 .....      | 25 |

## はじめに

館長 重信幸彦

2024年度を振り返って、この一年のキーワードをあげるなら「連携」と「拠点化」ということになるでしょう。

まず、春から秋にかけての二つの企画展は、大変に好評でしたが、いずれも単に当館の収蔵資料のみで展示を構築するのではなく、外部の施設との「連携」をとおして具体化しました。

春期企画展「戦場からのことば 一軍事郵便・遺書一」は、鹿児島県南九州市の知覧特攻平和会館の御協力をあおぎ、同会館所蔵の福岡県出身の特攻兵の遺書約40点のパネルをお借りし、当館所蔵の資料を合わせて展示を構築しました。そしてご協力下さった知覧特攻平和会館の学芸員・羽場恵理子氏をお迎えし、当館の企画展担当学芸員と共同で講演とセッションを実施しました。

そして夏期企画展「八月九日を忘れるな！ 一小倉と原爆<sup>もしも</sup>“if”の歴史一」では、旧長崎医科大学(現長崎大学医学部)で被爆死した小倉出身の学生に焦点をあてた展示をつくり上げるとともに、長崎平和推進協会(長崎市)の御協力を得て、長崎に投下された原爆の写真パネルをお借りし、当館の多目的ホールで展示するとともに、八幡西生涯学習総合センター前のマーメイド広場等にも出張展示を実施しました。

また、八幡西生涯学習総合センターで長崎平和推進協会写真資料調査部会長・松田斉氏の講演会を行い、当館多目的ホールで、長崎の被爆の実相を写した記録写真に関するギャラリートークを実施しました。記録写真の解説をめぐる松田氏の御話は、来場者だけでなく、当館スタッフにとっても新たな学びがあり刺激的でした。

こうした「連携」による展示構築は、テーマの共有から史資料の選定まで、実は手間がかかり、担当学芸員の苦労は多くなります。しかしそれ以上に、それぞれの施設や団体が持つ蓄積と関わることで、平和のまちミュージアムの新たな可能性が広がります。私たちのミュージアムは、多様な施設とのつながりをつくり育てて、そうした関係性のなかで、初めて盤石な根を張っていくことができると考えています。それが、今、私たちがすすめている「拠点化」においても、大きな力を発揮すると信じています。

2024年度はこの「拠点化」についても、一つの事業をスタートさせました。当館が実施している「青少年ピースフォーラム派遣事業」参加者などからメンバーを募り、平和への実践を担う次世代を育成するために、「北九州市ピースフィールドクラブ」を立ち上げました。メンバーは中学から30歳までのユース世代で、ミュージアムを拠点として活動しています。

名称のなかの「フィールド」という言葉には、あらかじめあつらえられた場ではなく、メンバーがそれぞれ問題意識を持って、自ら動き、そして他者と関わり、語り合うなかで、初めてかたちになる「現場」という意味を含めました。ですから北九州市ピースフィールドクラブの拠点は平和のまちミュージアムですが、そのフィールドはどんどん広がっていくことでしょう。私たちはこの集団を、決してただのボランティア団体とは考えていません。今はまだ、当館のスタッフが活動のサポートをすることもあります。今に、この北九州市ピースフィールドクラブが、当館の、そして北九州市の平和への学びの実践をけん引してくれるようになることを、願っています。

その時、文字通り、平和のまちミュージアムは、「拠点」としての可能性を強固にしていくに違いありません。